



令和5年度 西彼中学校「学びの土台づくり」研究構想

「学びの共同体」の実践をととして

教室の現状から

- ・反応の早い生徒やできる生徒の意見で授業が進んでいないか。
- ・ノートやワークシートをひたすら写しているだけの生徒がいないか。
- ・机に突っ伏して寝たふりをしている生徒がいないか。
- ・授業中の雰囲気を壊すような言動をとる生徒がいないか。
- ・「教えて」と他者に訊ねることができずに、息をひそめている生徒がいないか。
- ・授業中、終始、無表情な生徒がいないか。

「対話」と「協同」による学びの実践

めざす生徒像

知恵を出し合い、最善をつくすたくましい生徒

- ・生きて働く知識・技能を身に付けた生徒
- ・他と考えを共有し、よりよい解決策を模索できる生徒
- ・学びを生かそうとする生徒

これからの西海市を担う生徒たちだからこそ求められる姿

授業者の話を静かに聞き、問いに答える「勉強」から、課題や疑問に正面から向き合う「学び」へ

《学びの共同体》

- 生徒一人一人の学ぶ権利を保障する。(生徒が一人残らず学習に参加する。)
- 生徒たちが学び合い、教師たちも学びの専門家として成長する。
- 聴き合う関係を構築する。
- 基礎・基本の「共有」と「ジャンプ」による思考力・判断力・表現力の定着を図る。
- 「対話」と「協同」により、課題解決に向けた協同的な学びを組織する。



21世紀型の授業

《学習指導要領》

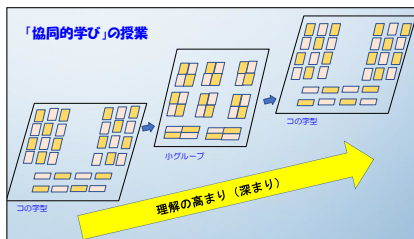
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

教科等において身に付けた知識技能を活用したり、思考力、判断力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じたものごとを捉える視点や考え方が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

研究主題 「主体的に課題に向き合い、考えを發展させることができる生徒の育成」
～聴き合い、つなぎ合い、学び合う学習活動の実践を通して～

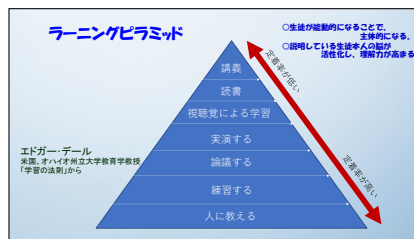
聴き合う学習のために

- 学習形態の改善（コの字型、ペア、グループ）
- 支持的風土のある教室づくり
- 「対話」と「協同」のためのルールの定着
- 他者に依存できる学習環境づくり



つなぎ合う学習のために

- 説明よりも課題重視の授業づくり
- 教師のテンションを下げることでの深い思考と静かな対話
- 個人（グループ）と個人（グループ）の意見や考え、根拠をつなぐ



学び合う学習のために

- 学びを深める「ジャンプ課題」の設定
- 他者とのコミュニケーションと依存を通して「わからない」が「わかった」へ
- 課題を解決できたグループは、新たな課題への挑戦と困り感のあるグループとのつながりを

